

神戸・北野界隈の地域特性と観光分析

仲谷恭平¹・吉川眞²・田中一成³

¹学生員 大阪工業大学大学院工学部研究科都市デザイン工学専攻博士前期課程
(〒535-8585 大阪市旭区大宮5丁目16番1号, E-mail:nakatani@civil.oit.ac.jp)

²正会員 工博 大阪工業大学工学部都市デザイン工学科
(〒535-8585 大阪市旭区大宮5丁目16番1号, E-mail:yoshikawa@civil.oit.ac.jp)

³正会員 博士 (デザイン学) 大阪工業大学工学部都市デザイン工学科
(〒535-8585 大阪市旭区大宮5丁目16番1号, E-mail:issey@civil.oit.ac.jp)

神戸・北野界隈は、六甲山系の麓に外国人たちの居住地として開発された地区である。その住宅は時代を経るにしたがって失われていき、一部は異人館と呼ばれる伝統的建造物として保存され、異国情緒溢れる街並を形成している。このような背景から北野界隈は住宅地でありながら、全国的に人気の観光地となっている。本研究では北野界隈の地域特性の把握を行い、住宅地と観光地という両面から、詳細な地域分析を試みている。

キーワード: 神戸、異人館、地域特性

1. はじめに

神戸・北野界隈は現在、全国的に有名な観光地として知られている。神戸港が開港し、外国人たちは海岸沿いに設けられた居留地に住居を移そうとしたが、造成が間に合わなかった。そこで神戸の山手にある田園地帯を外国人も居住できる雑居地とされた。そのなかでも、居留地に一番近く、山麓の恵まれた位置にあった北野村は、多くの外国人の住宅が点在する雑居地となった。

こうして形成された北野地区であるが、戦災や高度経済成長期の影響で外国人たちの住宅は失われ、マンションやホテルが乱立するなど、既存のまちなみに不調な地域環境が生じた。それに対して住民たちが市民団体をつくり、北野地区とその周辺に対してまちなみ保全活動を行うなど、地域の景観や外国人たちの住宅を守ろうとする動きが活発になった。

そんな中、1977年のNHK連続テレビ小説「風見鶏」の放送をきっかけに異人館ブームが起り、北野界隈は住宅地でありながら全国的に有名な観光地となった。神戸市が2003年に行った観光イメージ調査(神戸市観光局記者発表資料, 2003)では港が30.2%、次いで異国情緒が28.7%、おしゃれなファッションが15.6%となっており、北野界隈はその中でも異国情緒というイメージを一手に担ってきた。

観光地としての神戸のイメージを形成する重要な地域ではあるが、一方で住宅地という性格もあわせもつてい

る。そこで本研究では北野界隈の地域特性を把握するとともに、観光地・住宅地の関わりに注目することで、神戸・北野界隈のイメージ形成の一端を明らかにすることを旨として研究を展開する。

2. 研究の目的と方法

良好な住環境にはさまざまな条件があるが、その地域のまちなみ、都市景観が美しく保たれていることは必須であるといえる。本研究では北野地区を中心に周辺の環境をもとに研究の対象範囲を定め、北野界隈が住宅地であることが観光に与える影響などから地域特性を把握することを目的としている。研究の方法として、GIS (Geographic Information System) を駆使し、観光地としての北野界隈、住宅地としての北野界隈を把握していく。

GISとは空間データ(位置に関する情報を持ったデータ)を統合的に管理・加工し、視覚的に表現することができる技術である。さらに高度な分析や迅速な判断を可能にするなど、その用途は多岐にわたり、さまざまな場面で活用されている技術でもある。本研究ではGISを有効的に活用することで2つの観点から北野界隈を把握している。

まず観光分析では、実際の観光ルートと人々の観光行動との関係を見ることで北野界隈における人々の観光行動を把握する。次に住宅地分析では土地利用を現地調査

況データベースを構築し北野界隈の都市構成を把握する。その上で実際に北野から把握し、それを GIS 上に展開することで土地利用現界隈に住む人々が定めている景観条例などに着目し、観光との関連を把握する。

3. 対象範囲の選定

都市のイメージを形成する上で、行政区画による地域の境界は意味を持たない。空間の物理的繋がりや周辺環境により対象範囲を定めることが重要であるといえる。そこで、本研究では、北野地区を中心に周辺の環境をもとに研究の対象範囲を定めている。

北野町は北側がそのまま六甲山系となっている住宅地である。北野町内には伝統的建造物がいくつもあり、特にそれらが集中している地区が伝統的建造物群保存地区として指定されている。

さらに、北野町の外、JR 三宮駅周辺や駅から北野町へ上る坂道沿いにも「北野」という名前が見られ、周辺にも大きな影響を与えていることが考えられる。そこで本研究では、対象地を北野界隈として、その範囲を独自に決定した。具体的には、街路ネットワークに着目し、北野へ続く4本の坂道の始まりとなる山手幹線より北側から山際まで、東西においては北野へ上る坂道のなかで西端にあるトアロード沿い周辺、東端にある不動坂沿い周辺の範囲を北野地区に加えて北野界隈とし、研究対象地とした(図1)。

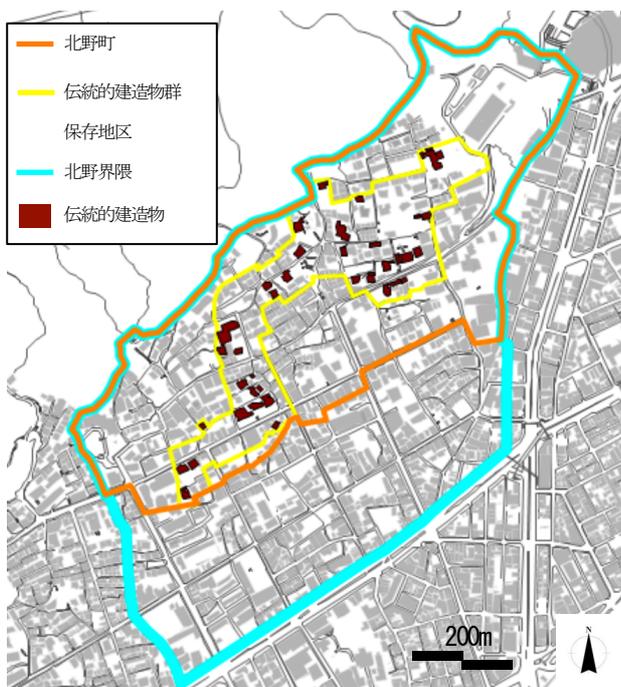


図-1 対象範囲

4. 観光分析

北野界隈には毎年多くの人々が観光に訪れ、年間 80 万人以上の人々が北野界隈に足を運んでいる。既往研究(竹内ほか, 2009)では北野界隈の観光対象について入込人数実測調査を行い人気の観光スポットを把握し、ネットワーク空間分析から実際に多くの観光客が通っている1つの街路の抽出に成功している。

本研究では、まず北野界隈を紹介している観光ルートを観光誌や Web サイトをもとに調査し、近年注目を集めているビッグデータを用いることで北野界隈における観光行動を調査している。ここでは Twitter や Facebook に代表されるソーシャルネットワーキングサービス (SNS) や写真コミュニティサイトなどのソーシャルメディアを用いたデータの収集を行っている。

今回使用したサイトは写真コミュニティサイト Flickr である。Flickr は国際的な写真コミュニティサイトで多くの人々に使われている他にも、API(Application Programming Interface)が公開されており、データの収集が比較的容易なため活用することとした。Flickr から人々が北野界隈で撮影した画像を抽出した。投稿画像には投稿者が付けたタイトルや撮影日時、GPS より取得した位置情報などをもっている。この位置情報をポイントデータとして GIS 上に展開したものが図2である。

その結果、公開異人館を巡る観光ルートが多く、写真撮影ポイントの大部分も公開異人館の周辺に集積していることが分かった。その他にも、坂道上(北野坂)に写真撮影ポイントはいくつか存在しているなど、人々は街路ネットワーク上から写真を撮影していることが多いということが把握できた。

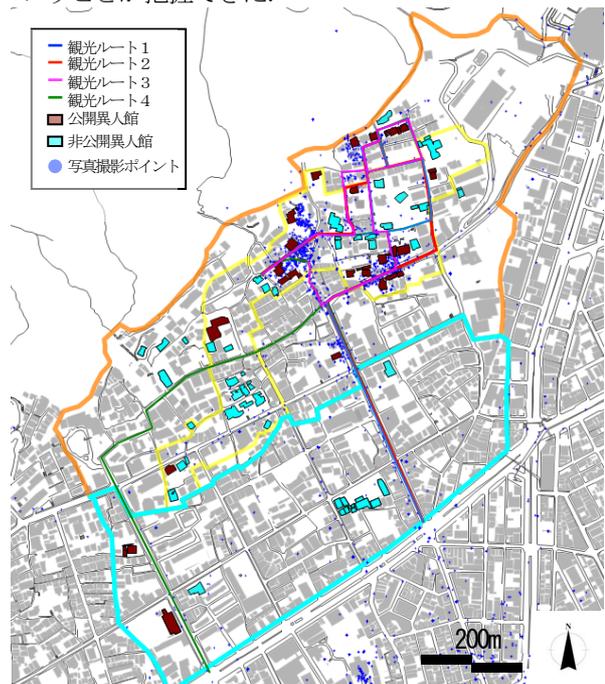


図-2 観光ルートと写真ポイント

5. 住宅地分析

(1) 土地利用分析

その地域の特色を知るとき、土地利用を見ることはかなり有効な手段といえる。そのため本研究では、現地調査から北野界限内の土地利用とその敷地境界を調査し、それらを GIS 上に展開した(図-3)。北野地区内は全体的に住宅地が多く、とくに西側に多く見られる。周辺部では商業用地が多いことが分かった。また、東側が商業用地となっているところが多いが、主要な街路沿いにはこれらの傾向があてはまらず、商業用地となっているところが多くなっている。これを見ると土地利用と観光が関わっていることが考えられる。

次に本研究で調査した2012年の土地利用と連続テレビ小説「風見鶏」放映前である1974年の土地利用を面積で比較した。住宅地が減少し、商業用地が増えており、観光地化したからではないかと考えられる(表-1)。

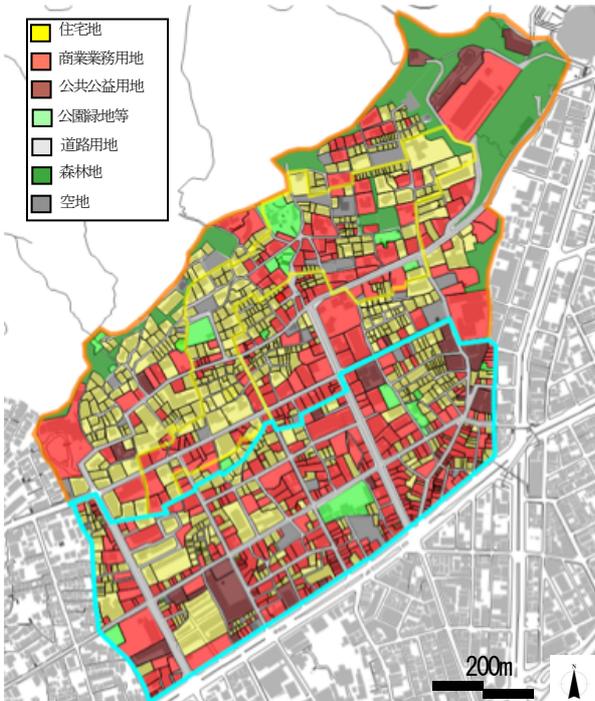


図-3 北野界限土地利用現況図

表-1 土地利用の比較 単位：a(アール)

| | 1974年度 | 2012年度 |
|--------|--------|--------|
| 住宅地 | 2265 | 1892 |
| 商業業務用地 | 1191 | 1412 |
| 工業用地 | 31 | 0 |
| 公共公益用地 | 552 | 276 |
| 公園緑地等 | 85 | 132 |
| 道路用地 | 680 | 1052 |
| 森林地 | 364 | 464 |
| 空地 | 223 | 180 |
| 合計 | 5391 | 5408 |

(2) まちなみ保全について

北野界限に住む人々は 1965 年にまちなみ保全のための市民団体を組織しており、名前を変えながら今でも活動を続けている。その市民団体である「北野・山本地区をまもり、そだてる会」は現在、景観形成市民団体にも認定されており、日々活動している。この団体によって定められているまちづくり憲章では住環境をよりよくするとともに、ファッションタウンとして地区を育てていくためのゾーニングがなされており、都市景観に対する意識が高い(表-2)。

また、神戸市で定められている景観条例において、北野界限では特例的に景観形成広場、景観形成道路、景観形成小径が定められている(表-3)。この条例では広場の景観形成や、道路を軸とした景観形成に積極的に取り組んでおり、そこに住む人々や観光客に向けた地域環境の整備が進められている。これらは観光にも大きく関わっていることが考えられる(図-4)。

表-2 まちづくりの約束

| | |
|------------|---------------------------------------|
| 居住環境保全ゾーン1 | 明治以降引き継いできた閑静な環境をまもり、さらによりよい居住地を形づくる。 |
| 居住環境保全ゾーン2 | 周辺環境にとけこむ店舗の点在によって、一層みがかれた居住環境をつくりだす。 |
| 住宅・商業共存ゾーン | 北野・山本らしくハイセンスな界限性をもつファッションタウンを形づくる。 |

表-3 景観形成条例

| 景観形成広場 | 景観形成道路 | 景観形成小径 |
|--|--|--|
| 良好な植栽や開放的な空間をもち、周辺の建築物と一体をなして、うらおいとやすらぎのある広场景観を形成するもの。 | 歩行者と自動車が共存しうる比較的幅員の広い道路で、ゆとりとにぎわいを演出しながら、この地区の主要な道路軸景観を形成するもの。 | 主として歩行者のための比較的幅員の狭い道路で、へい、生垣等の続く、うらおいのある歩行者専用道路軸景観を形成するもの。 |

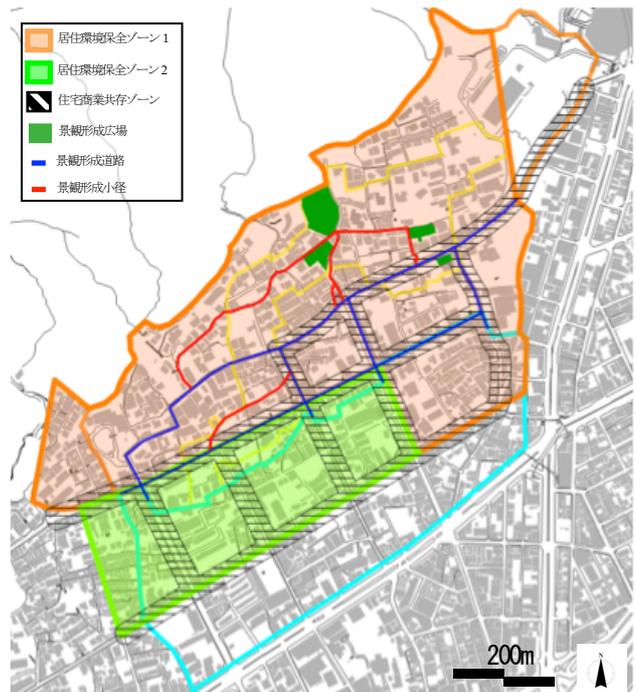


図-4 北野界限のまちづくりに対する取り組み

6. オーバーレイ

今回観光地と住宅地の2つの側面から北野界隈を調査・分析してきた。これらをオーバーレイすることで、今まで重視されていなかった街路が観光の対象になり得ることを把握した。

この街路には住環境を守るための約束、街路景観をよくするための条例などが制定されている。しかし土地利用をみると住宅地としての性格が強いためか、観光に用いられていない。景観形成道路と住・商混合ゾーンを結ぶ小径であり、非公開ではあるものの伝統的建造物が点在しており、観光のポテンシャルを持っていると考えられる(図-5)。

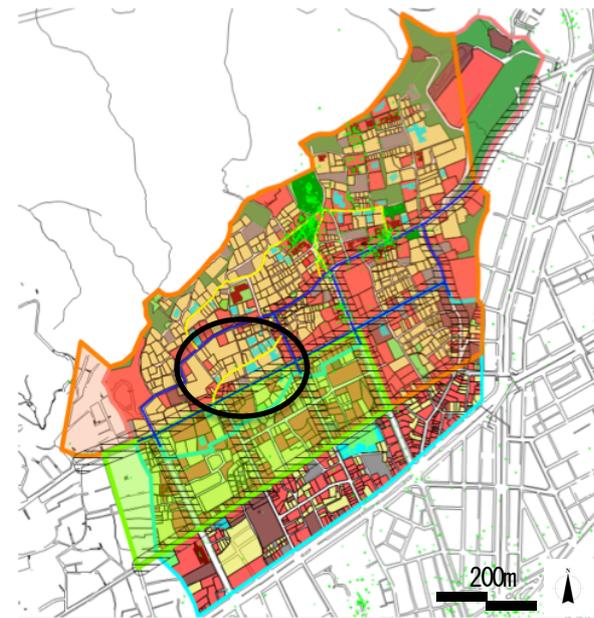


図-5 オーバーレイ

7. 観光ポテンシャルが高い道路の抽出

前項のような手法から、観光ルートに用いることが出来る道路を特定できるのではないかと考え、同様の手法で評価した。北野界隈の主な観光資源は異人館であるが、異人館にあわせてこの地域では異国の料理が食べられるカフェやレストランが話題となっている。そこでまずは、観光雑誌や観光サイトなどで紹介されている店舗の情報を追加して評価を行うこととした。

ここで対象としている主要な道路については、神戸市が公開している指定道路情報配信サービスを参考に、神戸市の公道に指定されている道路と定義した。これらの条件を加えた上で観光ポテンシャルが高い道路を抽出してみた(図-6)。

まず街路を交差点ごとで考え、重要な観光対象である公開異人館に到達する街路は必ず選び、その他店舗や景観資源となる非公開異人館を通るようにして観光ポテン

シャルの高い街路を抽出した。写真の撮影ポイントをみると撮影されている街路を抽出することが出来ているので妥当であると考えている。

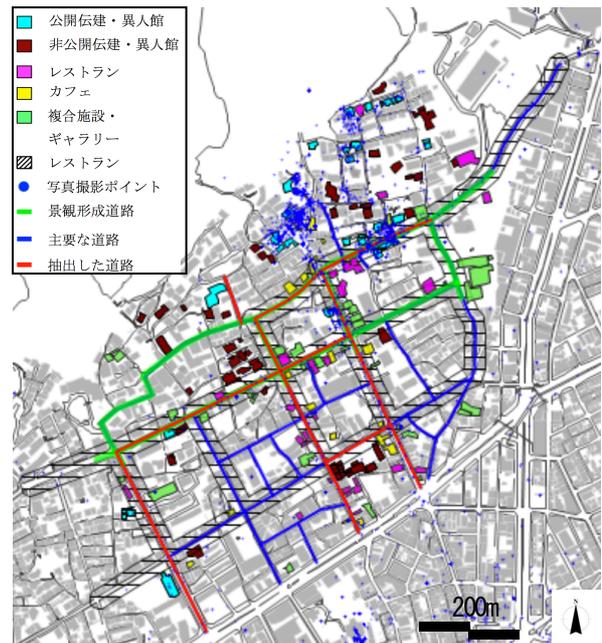


図-6 観光ポテンシャルの高い道路

8. おわりに

神戸・北野界隈はその歴史や都市景観など、非常に特殊な地域である。本研究では北野界隈を住宅地であるという特性と観光地であるという特性を捉え、それらをオーバーレイした。結果として神戸・北野界隈が本来的に持っていた住宅地であるという特性が観光に関わっていることを把握した。また住宅地としての特色が強い街路にも観光のポテンシャルを持っていることが把握できた。また、主要な街路について評価を行うこともできた。

今後の展開として、今回抽出した街路のように GIS を用いて、地域の特徴をもつ街路などを抽出し、それらの街路を繋げることで観光ルートの設定などを行い、景観的評価に展開したいと考えている。

参考文献

- 1) 竹内陽, 吉川眞, 田中一成: 空間データを用いた神戸の景観分析, 景観・デザイン研究講演集, No. 18/pp182-185, 2008
- 2) 神戸市: <http://www.city.kobe.lg.jp/>
- 3) 神戸市文化財課: 異人館のある町並み北野・山本, 株式会社イディー, 2000
- 4) 神戸市観光局記者発表資料: <http://www.city.kobe.lg.jp/information/data/statistics/sightseeing/data/img/image1501.pdf>, 2003